

県内経済動向調査結果(平成21年1月分)

平成21年3月9日
産業経済政策課

概況

県内経済は、国内外の需要減退の深刻化により、製造業全体で生産が大幅に落ち込んでおり、引き続き悪化している。

主な業種	状 況
製 造 業	<p>ほとんどの業種で生産・受注が大幅に落ち込んでおり、さらに悪化している</p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比42.0%減、同42.8%減となった。3か月先の業況見通しDIは 67.1から 43.4となった。</p>
建 設 業	<p>業界全体で厳しい状況が続いている</p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比76.5%減、同60.2%増となった。3か月先の業況見通しDIは 75.0から 43.8となった。</p>
小 売 業	<p>弱い動きが広がっている</p> <p>売上高は前年同月比で2.5%増、3か月先の業況見通しDIは 66.7から 61.5となった。</p>
サービス業	<p>運輸業や旅館・ホテルを中心に低調となっている</p> <p>売上高は前年同月比10.3%減、3か月先の業況見通しDIは 37.5から 12.5となった。</p>

製造業の動向

1 食料品

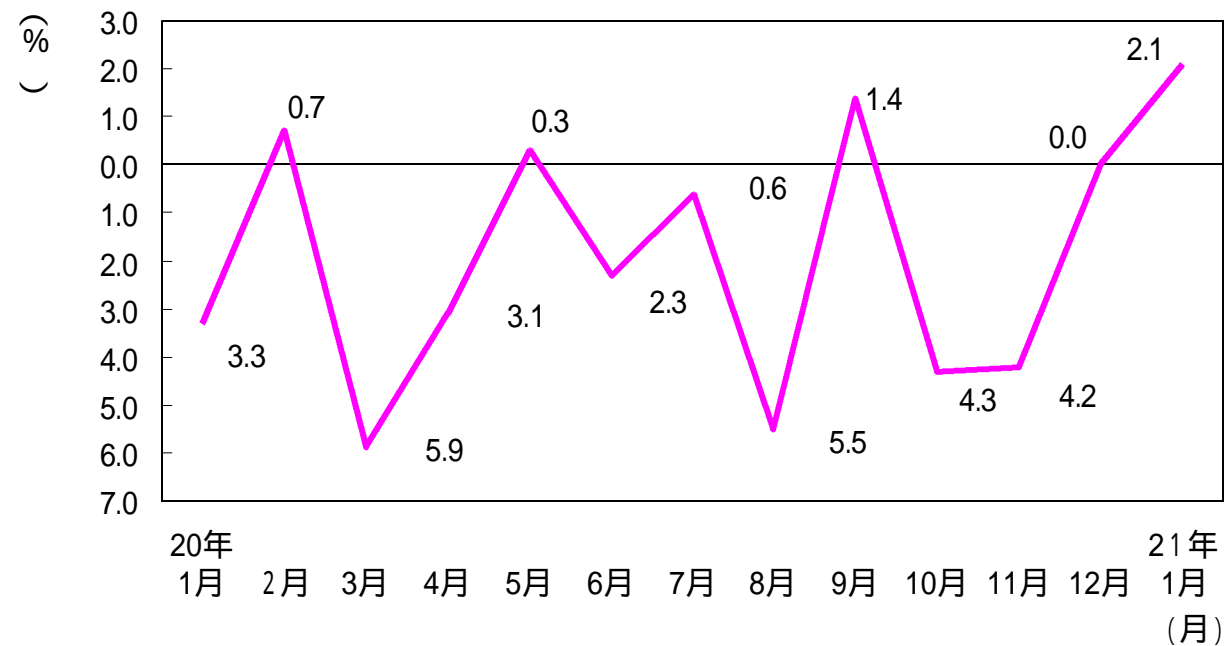
弱い動きが続く

生産額は前年同月比2.1%増。3か月先の業況見通しDIは 57.1と変わらない。

酒類では、暖かい日が多かったことも影響し消費量が落ち、県外を中心に売上が伸び悩んだ。一方、加工食品や調味料関連では、鍋物商品で前年並となっているほか、冷凍食品でも堅調となっている。総じて見ると前年同月比微増ではあるが、国内景気悪化に伴い弱い動きは続いている。

この間、ペットボトルなどの石油製品や段ボールといった資材で高止まりが続いており、企業の収益を悪化させている。

食料品生産額前年同月比



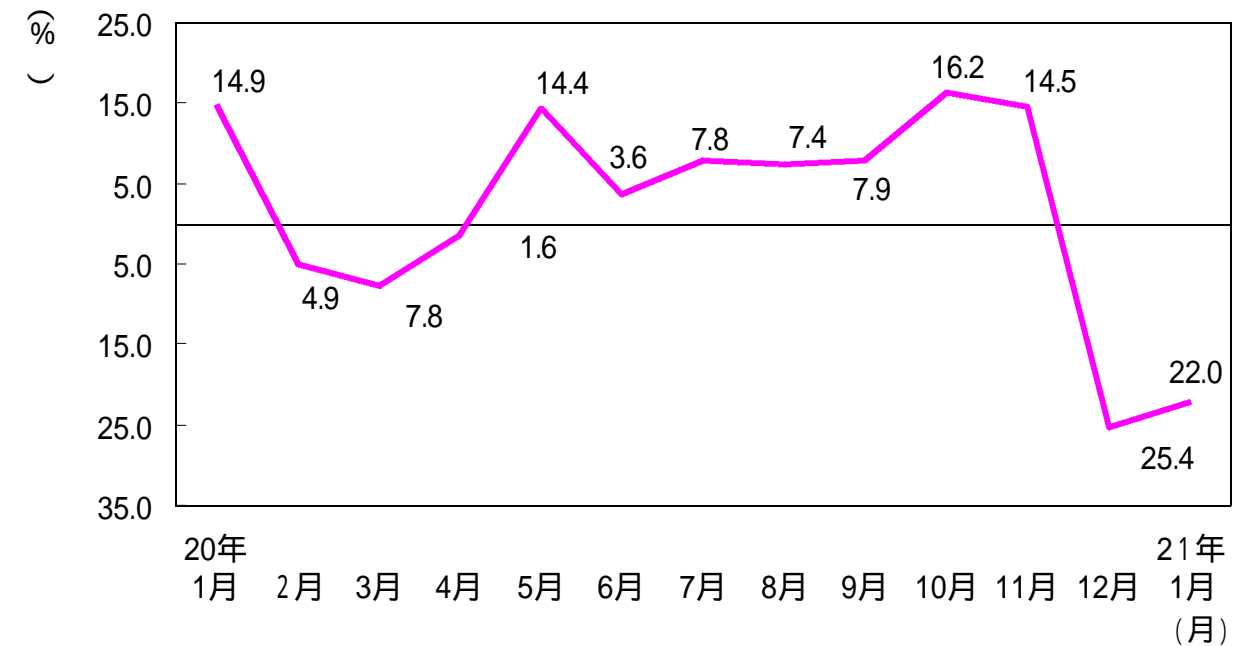
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比22.0%減、同20.7%減。3か月先の業況見通しDIは 71.4から 66.7となった。

春夏に向けて生産が順調に進んでいる企業も一部には見受けられるが、百貨店などの衣料品販売不振の影響が見られるほか、小ロット・短納期の発注が多いことから、各社で受注量が大幅に減少している。総じて低調となっている。不況による消費者の節約志向もあり、先行きの不透明感が強まっている。

繊維・衣服生産額前年同月比



3 木材・木製品

17ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比16.8%減、同18.2%減。3か月先の業況見通しDIは 41.7から 25.0となった。

国内景気の悪化に伴い、全国的に住宅市況が低迷しているほか、公共工事も少なく、県内でも閑散期に入っていることから、総じて合板、集成材、一般製材で低調な生産活動が続いている。回復の兆しが見えず、先行き不安から雇用調整や休業を検討し始めている企業も見受けられる。

4 鉄鋼・金属製品

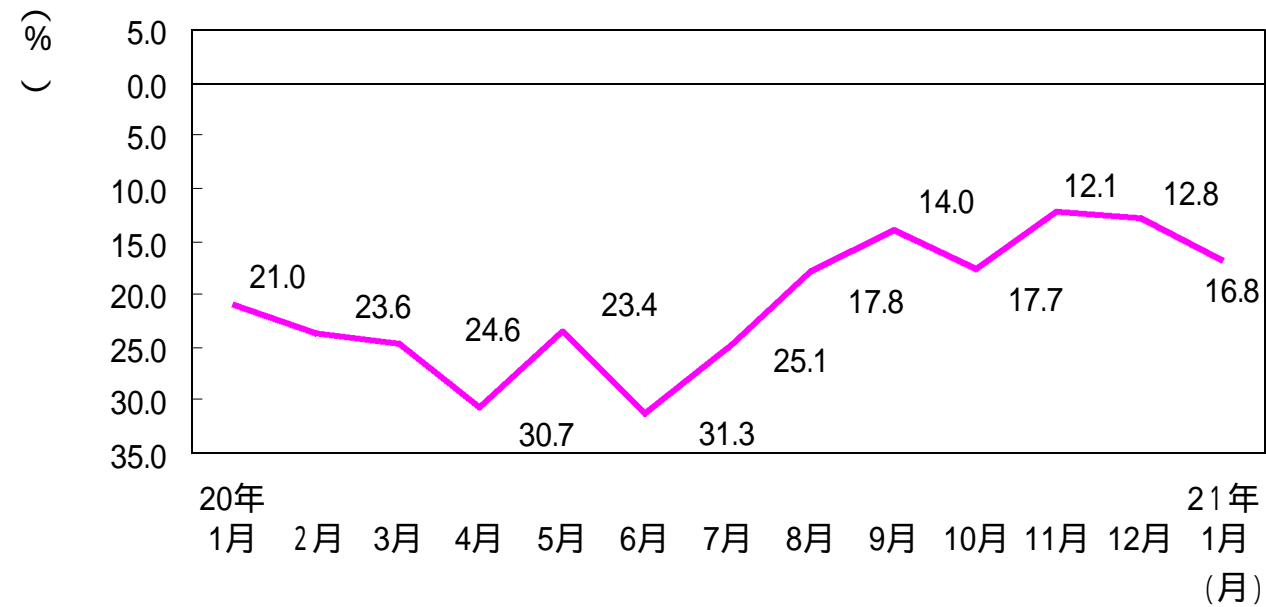
大幅に悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比46.2%減、同43.3%減。3か月先の業況見通しDIは 63.6から 36.4となった。

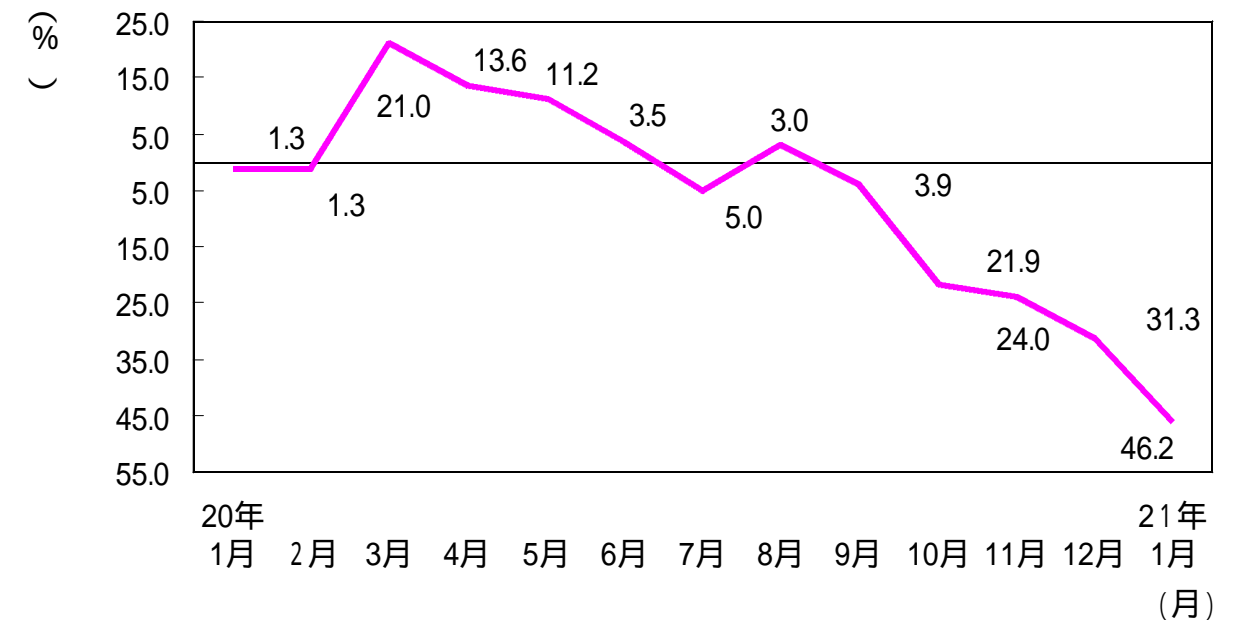
建機関連において、先月に引き続き堅調となっている企業が一部にある。電気機械関係では、ブルーレイ部品などで一部動きが出始めているが、自動車用プレスを中心に受注が落ち込んでいる。公共工事関連でも、大手ゼネコンからの工事が急減するなど、ほとんどの企業で先月以上の減産となっている。建具関係でも、住宅市況の一層悪化から、3割以上の減産となっている。

生産調整について休業などで対応している企業があるほか、非正規社員雇い止めなどの雇用調整を検討している企業も多く見受けられる。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比



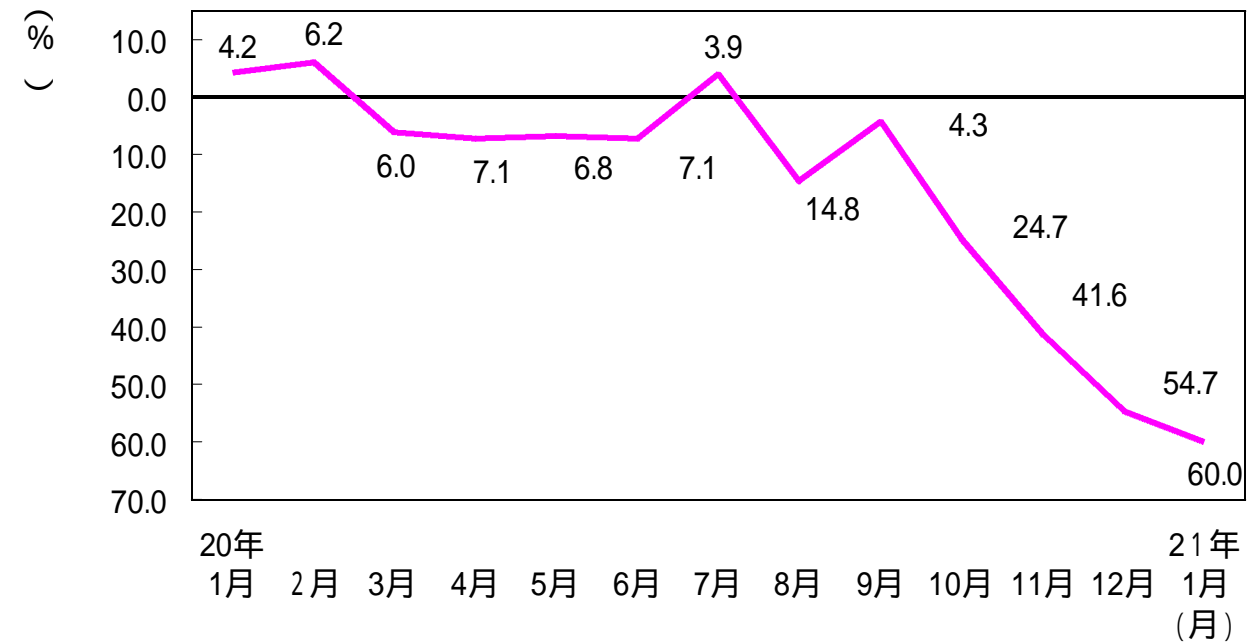
7 輸送機械

大幅な減産続き、急速に悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比60.0%減、同59.0%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0と変わらない。

国内向け・海外向けともに需要の減少は深刻化しており、品目にかかわらずほとんどの企業で在庫調整が進んでいる。6割以上の大幅な減産となっており、休業日を設けて対応している企業が多い。この間、各企業で派遣社員や契約社員を中心に雇用調整が行われているほか、正社員の解雇を検討している企業も見受けられる。

輸送機械生産額前年同月比



8 精密機械

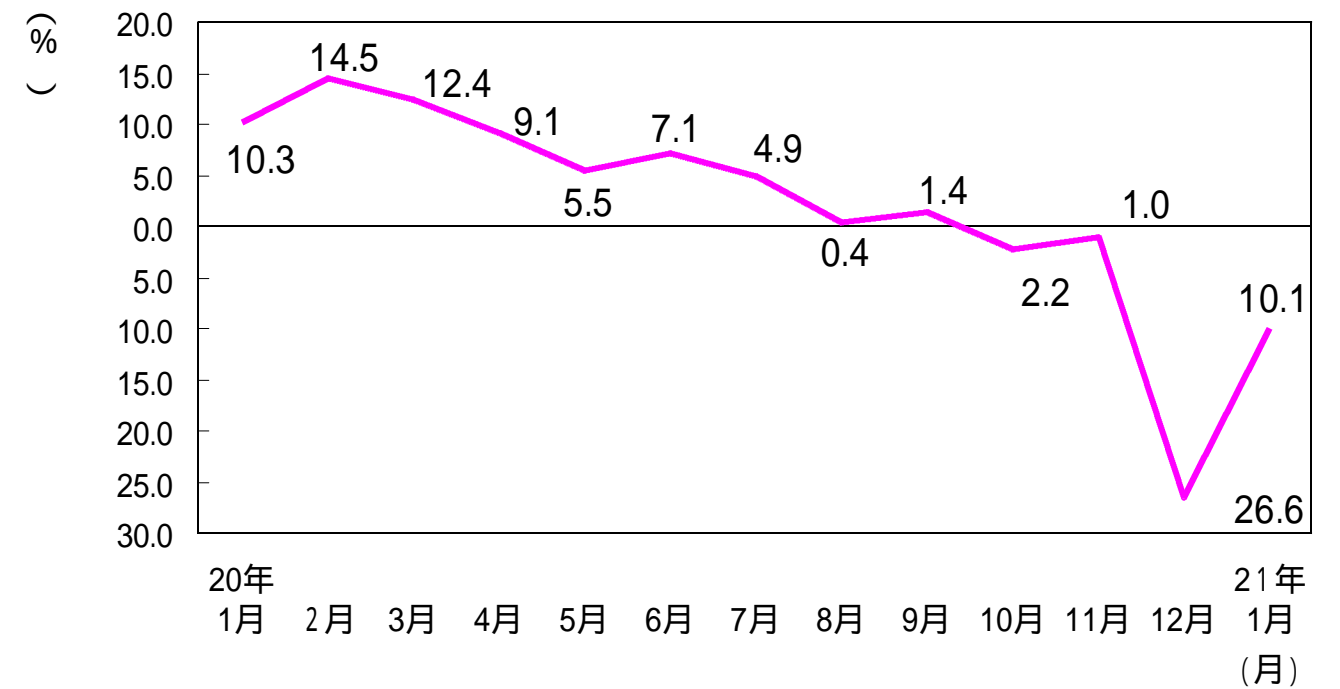
弱い動きが広がっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比10.1%減、同14.1%減。3か月先の業況見通しDIは 87.5から 37.5となった。

医療機器関連において、生産・受注額では前年並を維持しているが、海外向け製品が多いことから、円高の影響を受け収益性が悪化している。デジタルカメラ関連や携帯電話部品関連、自動車関連部品、光ファイバー関連、計量関連などで、国内外の景気悪化や円高の影響を受け、各社とも先月に引き続き受注・生産ともに落ち込んでおり、総じて弱い動きが広がっている。

この間、非正規社員の雇い止めなど雇用調整を行っている企業や、賃金をカットしている企業も見受けられる。

精密機械生産額前年同月比



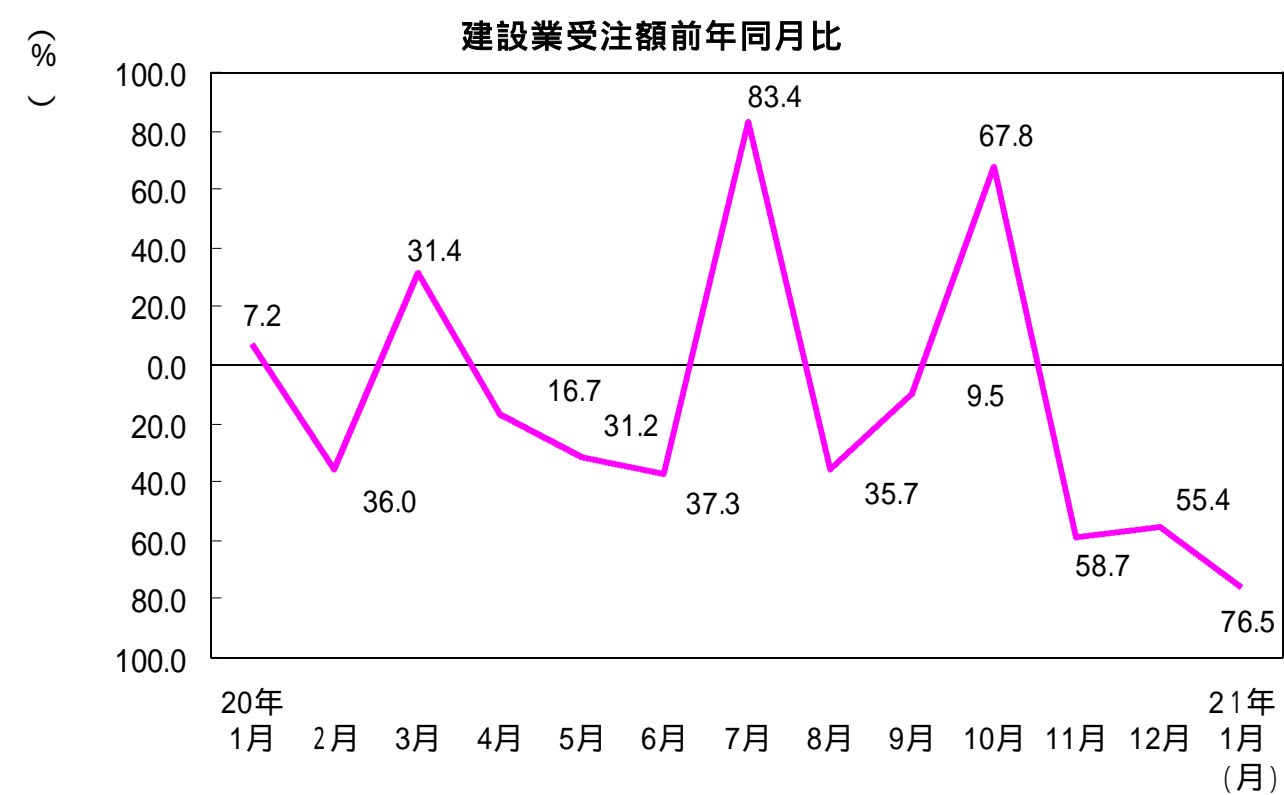
建設業の動向

建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比76.5%減、同60.2%増。3か月先の業況見通しDIは 75.0から 43.8となった。

民間工事では、雪囲いや除雪などを請け負っている企業も見受けられるが、季節要因や国内の景気悪化により工事は減少している。公共工事でも、依然として大幅な減少が続いている。経済対策により国や県の前倒し工事などで動きが出始めたものの、県外企業との競争激化により受注の厳しさを懸念している企業が多い。



小売業の動向

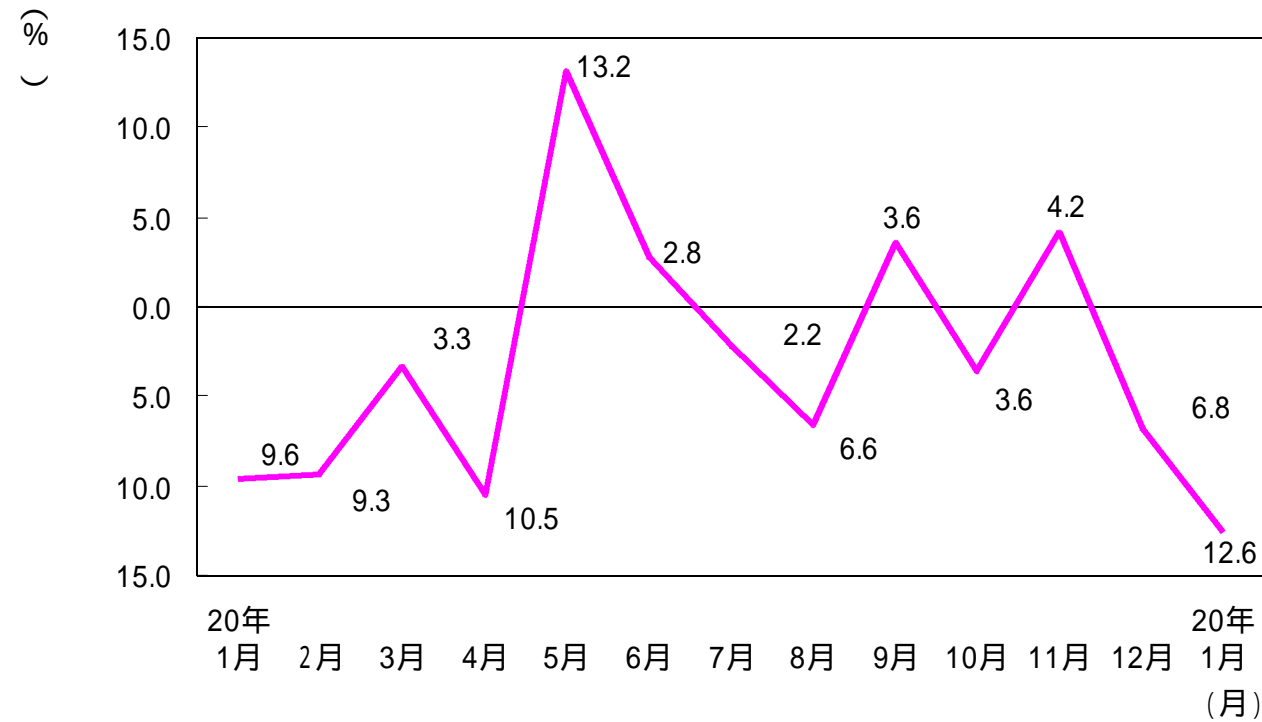
1 衣料品

低調な売上が続く

売上高は前年同月比12.6%減。3か月先の業況見通しDIは 83.3から 66.7となった。

初売り商戦が低調なうえ、暖かい日が多く、それ以降もコートなど冬物商品の売上が伸び悩んでいる。客足・客単価の減少は続いており、不況による消費者の節約志向は一層強まっている。例年に比べ、法人向けの作業服などの発注も減少傾向となっている。

衣料品売上高前年同月比



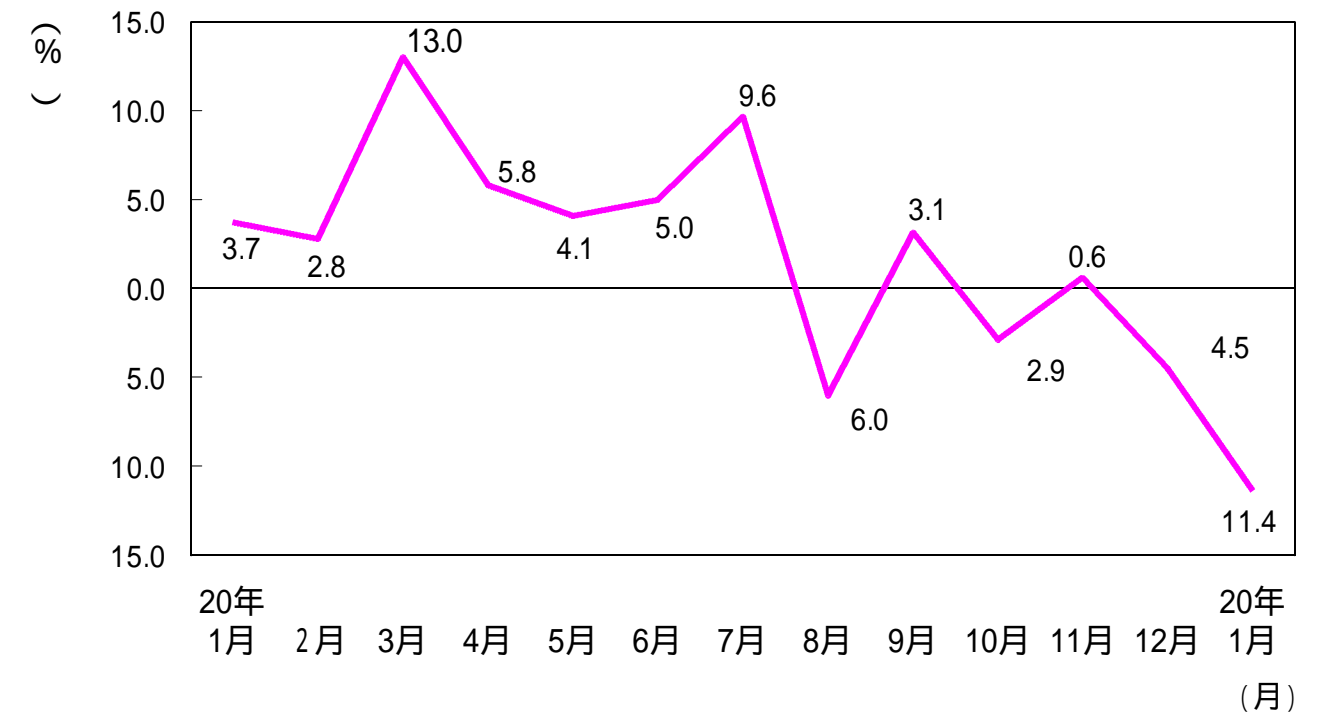
2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比11.4%減。3か月先の業況見通しDIは 83.3から 80.0となった。

例年に比べ暖かい日が多く積雪も少なかったことから、暖房器具、除雪用品など季節物の売上が芳しくないほか、日用品も先月に引き続き低調に推移している。例年であれば、春先に向けて園芸用品や新生活用品に動きが出始める時期であるが、いずれも低調な売上となっており、消費者の節約志向が続いている。

身回品売上高前年同月比



3 飲食料品

底堅い売上が続く

売上高は前年同月比7.9%増。3か月先の業況見通しDIは 60.0から 70.0となった。

暖かい日が多かったことから、鍋物商品などの動きが鈍いほか、嗜好品である酒類でも低調な売上となっている。一方で、内食傾向が強まっていることや一部セールの影響もあり、飲食料品全体で見ると、底堅い売上が続いている。

この間、仕入れ価格高騰により企業の収益性は悪化している。

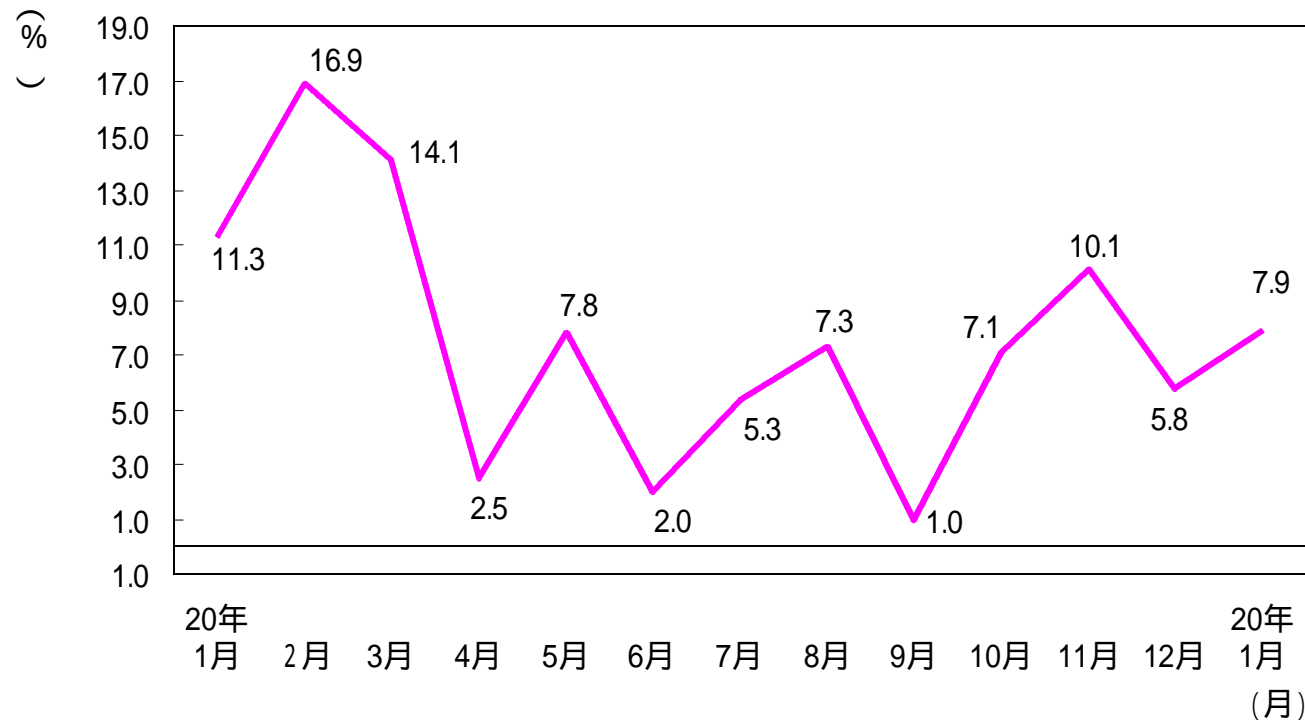
4 家電品

弱い動きとなっている

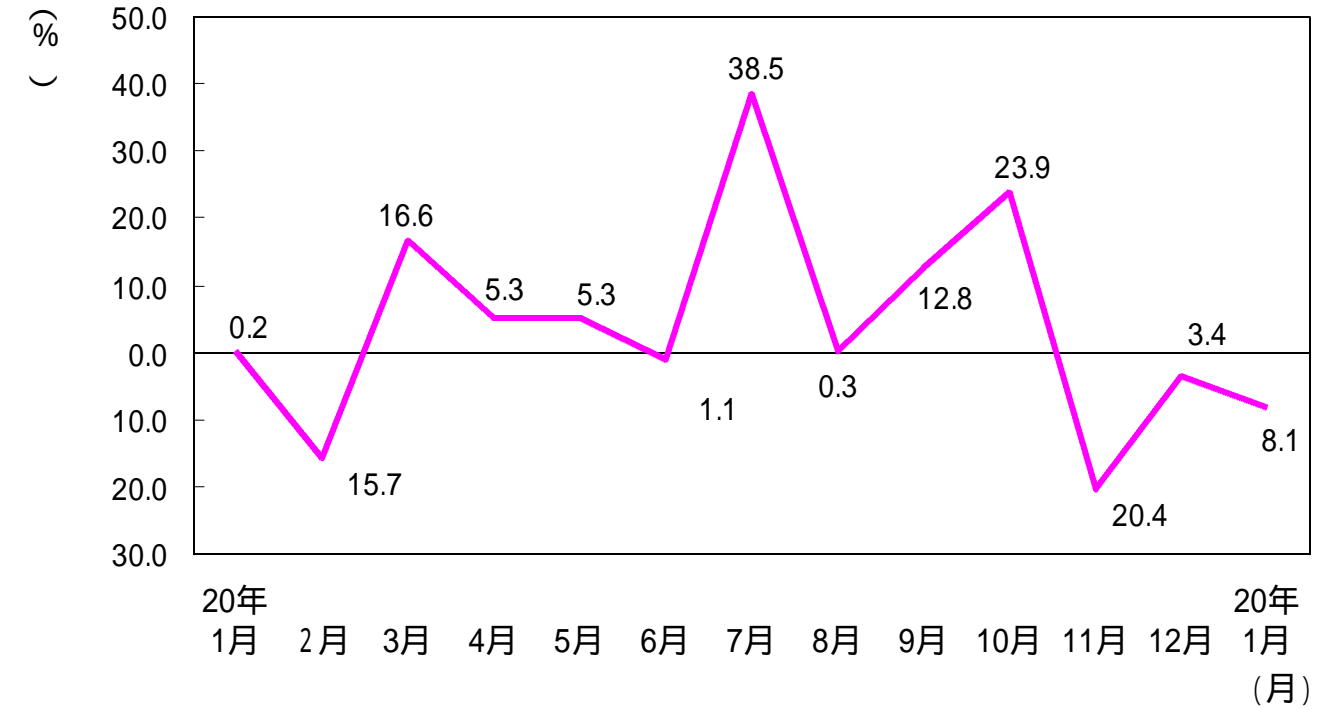
売上高は前年同月比8.1%減。3か月先の業況見通しDIは 40.0から 20.0となった。

薄型テレビやブルーレイレコーダーなどのデジタル家電で引き続き堅調となっている。一方で、暖かい日が多く、積雪も少ないことから暖房器具などの季節物商品で低調となっているほか。白物家電で動きが鈍くなっている。携帯電話やデジカメでも引き続き低調なことから、総じて見ると弱い動きとなっている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



サービス業の動向

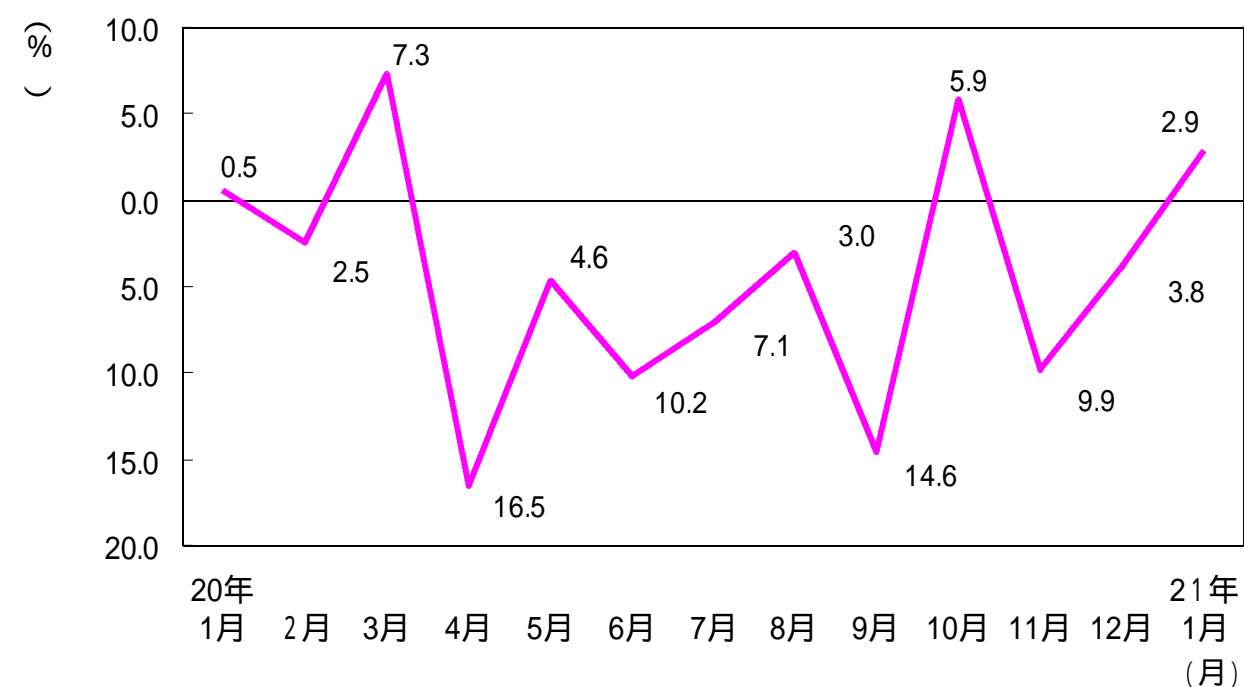
1 旅館・ホテル

厳しい状況が続く

売上高は前年同月比2.9%増。3か月先の業況見通しDIは 57.1から 35.7となった。

好天となった日が多いこともあり、低額プランなどで観光客を取り込んでいる企業が一部で見受けられる。しかし、ほとんどの企業では宿泊、婚礼、宴会の各部門で減少傾向が続いている。総じて見ると前年同月比増となっているが、特殊要因によるものであり、それを除くと2.6%減となり厳しい状況が続いている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

運輸業では低調に推移するも、道の駅で好調

売上高は前年同月比18.2%減。3か月先の業況見通しDIは 10.0から20.0となった。

運輸業では、貨物での動きが鈍いほか天候が良かったことからタクシー客も減少している。売上高は前年同月比6.0%減と、低調となっている。ソフトウェア関連でも、先月に引き続き前年割れとなり低調となっている。

しかし道の駅では、天候が良かったことやガソリンが低価格で安定していることから自家用車での来客が多く、先月に引き続き飲食店や物販店ともに売上が伸びており、前年比13.2%増となっている。保険では、動きが少なく弱含み基調が続いている。

その他サービス売上高前年同月比

